



国立大学法人長崎大学

<http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/>

長崎大学は国内で唯一“熱帯医学”専門の研究所を持っています。国内の住血吸虫症などの寄生虫制圧に貢献しただけでなく、1966(昭和41)年には独立直後のケニア共和国政府の依頼を受けて医療チームを派遣しました。

1971(昭和46)年、NBC長崎放送がこの活動の記録を『ダクター・ジャパニ』としてドキュメンタリー化。さだまさしの名曲「風に立つライオン」はこの活動の様相をテーマにした楽曲です。

以来、長崎大学は現地で診療だけでなくケニア人の医療スタッフの育成を図りながら“熱帯医学”の研究を継続するとともに、今では水産・土木工学など“生活環境”改善分野まで支援を拡大しています。

認定NPO法人ロシナンテス

<https://www.rocinantes.org/>

「ロシナンテス」は、北九州市出身の外科医・川原尚行さん<1965(昭和40)年生>が立ち上げたNPOで、スーダン共和国中心に医療活動等に取り組んでいます。

川原医師は九州大学医学部卒業後、在外大使館の医務官としてタンザニアを経て、スーダンに勤務しますが、内乱等で混乱した現地の医療状況に心を痛め退職し、単独で医療活動を開始。2006(平成18)年、北九州市に「ロシナンテス」を設立。

以来、マラリアが多い小さな無医村に診療所を開設し、日本の中古医療器具・救急車を活用して医療の充実を図ります。今では、医療・環境・農業・文化・教育と言う幅広い形でスーダンの人々と共同作業を行っています。ラガーマンらしく「ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために」が活動のモットーです。



シロアムの園

<http://www.pediatrics-hokudai.jp/recruit/abroad/kumon.html>
<https://www.thegardenofsiloom.org/>

「シロアムの園」は、和歌山県出身の小児科医・公文和子さん<1994(平成6年)・北海道大学医学部卒>がケニアの首都ナイロビ郊外に開設した福祉施設です。

公文医師は在学中訪れたバングラデシュの子どもたちとの出会いから「将来は発展途上国で働く決意を大きくした」と言います。卒業後、イギリスで熱帯小児医学も学び、以来、カンボジア・東ティモールを経て大半をアフリカ、主にケニアで診療から人材育成・予防啓蒙・保健活動に取り組んで来ましたが、最も心を痛めたのは誰からも手を差し伸べられず「偏見と差別の中で苦しむ”障がい児たちの姿でした。

『今の子どもたちを輝かせたい』・・・公文先生は2015(平成27)年、地元の教会の手を借りてケニア初の障がい児支援施設を立ち上げました。



NPO法人 ナガサキピーススフィア員の火運動

<http://www.nagasakiips.com/>
<https://www.at-nagasaki.jp/spot/61027/>

ご一緒にナガサキピースミュージアムを支えていただけませんか



さだまさし
ナガサキピーススフィア
員の火運動会長

原田泰治・画家
ナガサキピースミュージアム
名誉館長

1995年、みんなが平和について考えるような場所「平和の玄関口」を作ろうというさだまさしの提唱ではじまった運動「ナガサキピーススフィア員の火運動」は、賛同する多くの方々のご支援をいただき、2003年4月ナガサキピースミュージアムを建設し、運営しております。

ピーススフィアの活動は、公的資金の援助なしに、NPO会員会費と募金、グッズ販売等の事業で運営されています。

この運動の維持・発展のためにも、もっと多くの仲間のご支援をお願いしております。

「小さな声は多くの人を動かすことはできないけれども、その声の聞こえる範囲の人は命をも救うことができますので、小さな声で今本当に困っている、迷っている人を勇気づけるような、そんなささやかな活動ができればいいなと思います。」

・・・5周年記念イベント原田泰治・さだまさし「ふたりでトーク」より